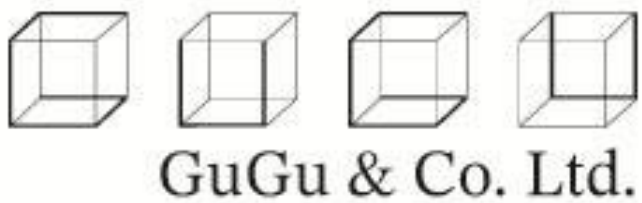


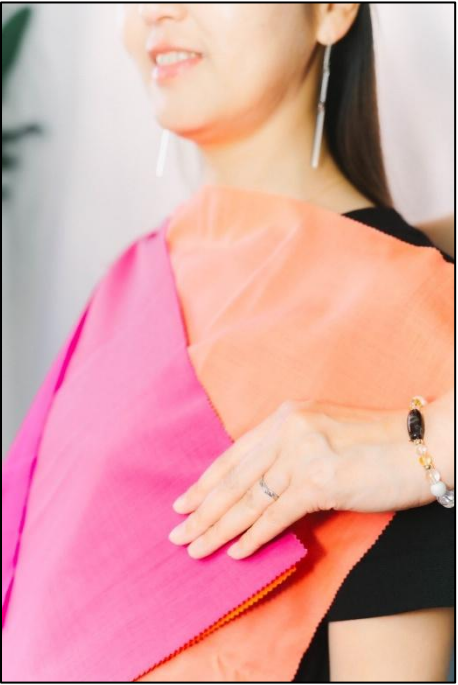
地域連携マイプロジェクト一覧

	分野／プロジェクト名	講師プロフィール	プロジェクト内容
	ビジネス	村井 正浩	★☆☆とかち野菜急便 村井 正浩 さんが取り組みたいこと★☆☆
1	とかち食材の直送・直売ビジネス実体験 ※～8 名 ※土日イベントあり	1972 年生 岐阜県出身 1994 年 株式会社ロッテ入社 1998 年 ハイネケンジャパン株式会社入社 1999 年 Schick ジャパン株式会社入社 トレードマーケティングマネージャー カミソリ Schick／洗口液リステリン 2005 年 ダノンジャパン株式会社入社 販売企画経営企画シニアマネージャー evian/ Volvic/ダノンヨーグルト ブランド 2013 年 アウディジャパン株式会社入社 エリアマネージャー 2021 年 株式会社エイコーウェルネス 常務取締役 2022 年 株式会社とかち野菜急便 代表取締役 	【内 容】 ①2026 年夏とかち帯広空港マルシェ（とかち食材直売）イベント企画→実施 2025 年からスタートし、2026 年夏秋をゴールとして、とかちの食材の素晴らしさを空港利用者にアピールし、来勝者の皆様に理解を深めてもらい、食材を実際に販売することで「流通」の仕事を体験します。2026 年 8 月実施を目標にとかち名産スイートコーンや夏野菜を揃え、1 ヶ月限定の中部国際空港便の運航時期を狙います。食材の選定や P R ポイント、 P O P 作り、帯広空港管理者「北海道エアポート様」にイベント実施のための交渉準備とプレゼンも予定しています。 ②幕別町×NTT 東日本が主催する「食と農の探究ツアー」に参加する関東圏の中高生と北海道の高校生とのグループワークを実施 プロジェクト生徒には交流会に参加してもらい、道外に住む同年代が感じていること交流するなかで、北海道の魅力について知ってもらう機会を予定中。 【ゼットングループ飲食店】  【過去マルシェの様子】  
2	とかちごちゃまぜキッズパーク ※～10 名	1985 年生 幕別町出身 2004 年 障害者福祉施設で働く 2012 年 一般社団法人青鳥舎設立 放課後支援施設を経営（十勝 3 施設） 2022 年 BOOK Café&Bar Sen をオープン 2023 年 絵本「やっちゃれほっちゃれもっきっきー」を出版する。絵本作家としても活動中 2025 年 絵本「きこえなくたって」出版 幕別町応援大使に就任 	★☆☆一般社団法人 青鳥舎 小川 洋輝 さんが取り組みたいこと★☆☆ 福祉の世界は広いです。生活をしていると障がいを持った人と関わることは少ないのではないのでしょうか？どんな人でもこの社会で暮らす一員に変わりありません。障がいのある人の暮らしやそれを支える仕事もあります。高校生にはワークショップを通して交流をして、障がいのある人たちの社会参加の機会を一緒に作りませんか？そしてそうした福祉の力や仕事を見て、新たな進路選択も検討することができます。目標は、多くの人たちが交流できる何かを企画できるところまでいけると面白そうです！ ①障がいのある子どもとの交流やワークショップを開催します。 ②イベント開催に向けて企画しませんか？ 

3	高齢者福祉	幕別町社会福祉協議会	★☆☆幕別町社会福祉協議会さん が取り組みたいこと★☆☆ 高校生自らが、高齢者サロンなどの集いの場を通じて地域住民の生活に触れ、交流し、よりよい居場所づくりを提案する。つながりや支え合いは、いずれ自分自身が高齢になった時に欠かせないものになることを若いときから考えることが大切です。プロジェクト活動を通した体験を踏まえて、若い世代として住民同士のつながりの大切さを伝承していく機会になってほしいと考えています。 Step 1 学習 つながりや支え合いについて、人との触れあい、居場所は誰にとっても必要であり、高齢になった生活にはことのほか大切になっていることを学ぶ Step 2 参加 町内の地域サロンや住民の集いの場に参加し、課題や新しい構想などを考える Step 3 計画・実行 サロンに参加した感想を踏まえて、高校生として考える集いの場を企画し、「高校生サロン（仮）」を開催する。 Step 4 発言 Step 1～3を通して活動を振り返り、体験したことや学んだことを広く町民へ発信する。
	高校生が運営！ 高校生サロン ※～10名 ※土曜日のイベントあり		
4	地域活性化	岡田 大介	★☆☆幕別町地域おこし協力隊 岡田 大介 さんが取り組みたいこと★☆☆ このプロジェクトでは学校がある「幕別町」について学んだり、そこに係わる人との交流やイベントに参加して、地域貢献・地域活性化を担う人材を目指します。これが地域おこし協力隊の仕事です。日本の人口が減少しているのは知っていますか？自分が住んでいる町や出身地も例外ではありません。日本は少子高齢化が進んでおり、この先の未来、人口が1億人を切る推計が出ています。そうした状況の中、町や社会を維持していくために、支える、活性化させる人材が求められています。働いて得る自分の利益も大切なのですが、ビジネス界では、モノ・サービスを購入し、消費してくれる人数が減少すれば、利益も減り、会社も維持できなくなります。つまり人口減少は町だけでなく、自分自身やその家族にも降りかかる重大な問題なのです。こうした問題に立ち向かい、地域を支える人材を目指しませんか？ ①幕別町の魅力発見（フィールドワーク&インタビュー） ②フリーミッション（自分たちに何ができるか？実現も？） ③十勝スカイアースとの連携（地元サッカーチームとの連携を考えてみよう） ④地域イベントへの参加（まくべつ夏フェスタ・まくべつ産業まつり・Tsunagu Lanternに参加してみよう） ⑤糠内小学校訪問授業（糠内小学校が困っています！） ⑥北海道科学大学連携（大学生との交流） ⑦幕別町未来理想図を描こう！
	地域活性化 ※～5名 ※土日のイベントあり	【年齢】26歳 【出身地】千葉県千葉市 【転出元】兵庫県南あわじ市 【前職】株式会社パソナHRHUB 【現職】幕別町地域おこし協力隊 十勝スカイアース所属 ～講師～ 前職では地域創生に携わることが多々ありました。出身は千葉ですが、四国や淡路島など地方での生活が長く、各地域のサッカークラブに所属していました。そのたびに地域の方々や企業に応援され支えられていることを実感し、サッカー以外にも地域の活性化に貢献したいという思いから地域おこし協力隊に応募しました。町の賑わいづくりを目的に空き施設再生や幕別町に来るきっかけができるようなイベント考案などを行い関係人口の増加、移住・定住の促進に取り組んでいます。幕別清陵高校と連携し地域貢献を通して、学生たち（若者）が住みたい、住み続けたいと思ってもらえるような町づくりと魅力を発信していきます。  	

5	高齢者福祉	清野 紀子	★☆☆認知症対応型通所介護 STORY 清野 紀子・遠藤みどり さんが取り組みたいこと★☆☆
	Orange cafe 運営 ※～5名程度 ※放課後も活動時間あり	会社名 Regional Nurture Co.Ltb 2020 年 会社創立 2021 年 Home care support office 「Regional Nurture」設立 2021 年 認知症対応型通所介護施設「Story」設立 従来の福祉のカタチにとらわれず、地域や教育とつながり、住民、子どもたちが交流できる福祉を目指しています 	幕別町には9か所のデイサービスがあり、そのうち2か所が「認知症対応型通所介護」となります。認知症対応通所型の役割は「認知症」を発症しても自宅で過ごしていけるように、身体や頭を使い、病気の進行を緩やかにしていくことです。 経営理念「～ひとりの笑顔がたくさんの人を幸せにする～」 一人一人の笑顔により周りにいる人が自然と笑顔になり、あたたかい気持ちになれるように経営理念が生まれました。 経営目的「～いつまでも学ぶこと、知ることができるライフスタイルを提供する～」 年を重ねても何かを学び、知ることができるライフスタイルを皆さんと一緒に考え、提供していきます。 【プロジェクト概要】 オレンジカフェの運営 ※オレンジカフェとは… 認知症に苦しむすべての人が集まり、くつろげる、親しみやすい雰囲気、アクセスしやすい場所というアルツハイマーカフェをオランダの心理学者が開設したのが起源です。このコンセプトは多くの社会で広がり、認知症患者と介護者が同じ状況にある人々と出会い、自分の状態や経験について話すことでサポートされ励まされるような社交の場を提供することで、認知症を取り巻く偏見を克服するのに役立っています。 □目標 認知症のことだけにとらわれず、視野を広げ、心温まる空間を提供する。地域の協力を得ながら地域住民が認知症を発症したとしても、住み慣れた環境の中で暮らしていくことができる体制を作りましょう。 □目的 認知症の方やその家族のみならず、認知症に関心がある方なら誰でも集うことができ、お茶を飲みながら気軽に話ができる場です。認知症の正しい理解や適切な対応を学び、周知することで認知症の人を支える繋がりを作ることができます。 
6	ビジネス IT・AI・マーケティング	坂口 愛 / 船戸 聖音	★☆☆株式会社 GuGu 坂口 愛 さんが取り組みたいこと★☆☆
	ビジネスが 好きになっちゃう放課後 IT と AI で十勝の魅力を 世界に届ける マーケティング体験 ※20名未満	幕別町出身 大学卒業後 IT 企業に就職し、プログラミングやシステム開発、設計に幅広く携わり、システムコンサルティングのプロフェッショナルとして活躍。 在職中は、米国ニューヨークにある子会社に5年間出向し、現地の金融機関向けにシステムコンサルティングやアプリケーション開発を担当。 世界のビジネスの最前線で技術力を磨く。 また、青年海外協力隊としてアフリカのナミビア共和国に派遣され、ナミビアの保健省で2年間、HIV/AIDS、マラリア、結核の患者情報を管理するデータベースの開発支援に従事。 現在は、十勝でアプリケーション開発の会社を立ち上げ、地元の企業や地域のために役立つシステムを作ったり、ITを活用した働き方を広める活動をしている。 	このプログラムでは、IT と AI を活用して、十勝の魅力的な商品やサービスを広める方法を実際に体験します。 十勝の企業と協力しながら、リアルなビジネスの現場でマーケティングを行います。 企業から提供された商品やサービスを題材にして、どうすれば多くの人々にその魅力を伝え、ビジネスとして成功させることができるか、実際にマーケティング活動を行いビジネスのリアルな世界を体験します。 【マーケティングとビジネスの基本】 ・マーケティングとは何か、そしてなぜそれがビジネスにとって重要なのかを学びます。 ・商品やサービスの良さを見つけ、どのようにしてお客様にそれを伝えるか、基本的な考え方を体験しながら学びます。 ・また、ビジネスの基本的な仕組みと、お金をどうやって稼ぐかについても簡単に説明します。 【IT と AI を活用したマーケティング】 ・デジタル技術がこれからのマーケティングにとってどれほど重要かを学びます、AI や IT がどのようにマーケティングを変えているかを学びます。 ・ウェブサイトや SNS、特に Tiktok や Instagram などのアプリを使って、どのように商品やサービスを広めるかを具体的に学びます。 【実践: 十勝の商材をマーケティング】 ・実際の商品やサービスを使って、ウェブサイトや SNS でのプロモーション（宣伝活動）を行います。 ・効果的な写真の撮り方や魅力的な文章の書き方を学び、どのタイミングで投稿すると一番効果があるのかを考え、実際に戦略を立てて実行します。 【成果の確認と次のステップ】 ・ウェブサイトの閲覧数や、TikTok や Instagram での反応を確認して、宣伝活動の効果を評価します。 ・その結果をもとに、次に行うべきマーケティングのアイデアを考え、地元企業に提案レポートを提出します。 ・提案したアイデアを実現するための広告費を企業から獲得し、さらなるマーケティングを展開します。これにより、私たち自身のビジネスも成功させるための実践的な経験を積みます。  

	イベント企画・社会教育	福島 智大	★☆☆NORTH Re DESIGN 福島 智大 さんが取り組みたいこと★☆☆
7	「みんなの地元を楽しく」 社会教育の可能性を探ろう！ ～10名 ※イベント実施は土日予定	一般社団法人 NORTH Re DESIGN 代表理事 Candle 代表 幕別町商工会青年部 副部長 (デザイナー／社会教育士／バンドマン) 1991年生 岐阜県下呂市出身 2010年 帯広畜産大学入学 北海道へ移住 2014年 株式会社 クナウパブリッシング 入社 2017年 結婚を機に幕別町へ移住 2020年 Candle 開業フリーランスでデザイン事業開始 2021年 LAMPLIGHT FESTIVAL 主催 2023年 一般社団法人 NORTH Re DESIGN 開業 ①グラフィックデザイン、バンド活動をはじめとする「ものづくり」 ②イベントやまちづくりを考える「社会教育」 	社会教育という言葉を知っていますか？皆さんがこれまで通ってきた学校で行われているのは「学校教育」です。社会教育とは社会全体で行われる多様な教育活動のことをいいます。社会で体験し学ぶことはたくさんあります。皆さんには、学校外の大人と関わりながら、色々なことを学び、社会の中に自らがイメージした空間や時間を作る作業をしませんか？自分で興すイベントには、目的・目標、計画・準備、連携・広報・運営など様々なことをクリアしていかなければなりません。私はそのサポートをしながら、皆さんが何を学び、どう成長していくのかを楽しんでいきたいと思っています！たくさんの失敗、たくさんの議論・検討、そして自分たちでできることを見つけましょう。 【内 容】 高校生のみんなが「楽しい」と思えるイベントや場所はどうか？十勝・幕別をフィールドに一緒に考えてみませんか？みんなの「楽しい・ワクワク」で地域を動かしてみよう！ Step 1) 社会教育って何？(前提知識・先進事例を知る) Step 2) 企画(アイデア出し・関係機関への交渉) Step 3) 実践(イベント準備・運営) 【キーワード】 ○社会教育 ○まちづくり ○グラフィックデザイン ○音楽 ○イベント ○コミュニティ 音楽  コミュニティ  街づくり 
8	食の力と大切さを学ぼう ～8名程度	1952年生 小樽出身 1978年 結婚を機に幕別町へ これまでに複数の飲食店を経営 ・幕別仕出しセンター ・大衆割烹&寿司「呑」 ・軽食喫茶「チロル」 ・ラーメン「札幌軒」 ・パン屋「デンマルク」 2018年 こども食堂「みんなで食べようおうちごはん」 2022年 ピラ・リの森フェスタ主催 趣味は落語。高座名「智楽食亭まみい」 	食は人の体、人生を作る重要な要素です。世界では様々な食文化、食習慣があります。皆さんが生まれ住む日本も食を楽しむ素敵で独自の文化があります。また「食」には人や周囲の人を笑顔にする力があります。これまで飲食店経営や子ども食堂の運営を通じてたくさんの人の笑顔を見ることができました。皆さんにはこのプロジェクトを通じて、「食」と向き合い、文化・魅力に気が付き、この後の人生に続く「食」を楽しみ、自分も笑顔、そして誰かを笑顔にできるようなプロジェクトと一緒に考えたいです。「食の力、食の大切さ」を通じてさまざまな体験をしてみましょう！ 【内 容】 ◆みんながやりたい事をみんなで話し合いながら色々な事に挑戦します！◆ 【キーワード】 ○食育 ○食と文化 ○食と人間関係 ○料理 ○子ども食堂 

9	障がい者福祉・教育支援	油谷慶一 / 森田竜二	★☆☆株式会社しんかーず 油谷 裕子 さんが取り組みたいこと★☆☆
	全てのの人に健康と福祉を！ (仮) ※4～5名程度 場合によって増えても○	〈株式会社しんかーず〉 	しんかーずランチは、毎日の食事の用意が難しくなった方、病院から食事の制限を指導されている方、別居中の家族の食事が心配な方、産後の外出・調理が難しい方などに、美味しさはもちろん、管理栄養士が栄養バランスに配慮した料理を考えて、毎日昼・夕食日替わりで作りたての料理をお弁当箱に入れて、1食からでもご自宅まで届けています。 また近年、障害者雇用促進法が制定され、一般企業にも障がいをお持ちの方の 2.0%の雇用が義務付けられました。しかしながら、雇用の需要は決して多いとは言えず依然として就労は非常に厳しい状況に置かれています。「障がい」はその言葉のまま「害」ではありません。その人その人が社会生活を送る上での生きづらさを示す言葉です。株式会社しんかーずでは生きづらさを抱える方の雇用を積極的に進めていきます。しんかーずランチでは配食サービスの提供者となって働くことでサービスを受けるだけでなく、地域の高齢者福祉サービスを支える一員となります。株式会社しんかーずの社命は、健康の維持・向上・自立生活の継続や介護予防・生活習慣病予防に繋がるお客様の健康生活を支え栄養バランスを考えたお食事をお届けすること、そして就労支援をはじめとした地域生活支援事業を行ない、利用される全てのお客様の生活を支えるお手伝いをする事だと考えています。 【プロジェクト概要】※高校生と一緒に考えます！ミーティング後に内容が変更になる場合も有り。 ①清陵高校様の学内弁当販売に向けての企画・販売 ②清陵高校様の学内弁当販売に向けてのメニュー考案 ③スクオーラ帯広校（北海道初の4年制福祉事業型専攻大学）でのボランティア＆交流 (体験したことを発信して頂けたらと思います) ④本社で弁当の配達 → 高齢者との交流・配達業務の体験（配食の必要性を学ぶ） ⑤児童発達支援事業所「ぽっぷあっぷ」で障害児童との交流 ⑥教材作りと保育業務の体験
10	カラーコーディネート・美容	菅野 美穂	★☆☆Belle Couleur 菅野 美穂 さんが取り組みたいこと★☆☆
	カラーの力 自分の魅力をコーディネート ※～8名程度	12 年ほどオホーツクで中学校教諭(数学)として勤務 ・カラーコーチ ・CAP スペシャリスト ・ボディメイクアドバイザー ・オーダースーツのフィッター ・元教員向け独立サポート ・音更ふれあい教室「ほっと」、音更ドリームズ 21st 宝来校にパートで勤務 	色の持つ力(色彩心理)を使って、大人も子どもも《自分らしく》楽しく笑顔溢れる人生が歩めるように内面や外見を磨くサポートをしています。 〈プロジェクトで実践すること〉 〈内面サポート〉 *カラーセラピー→色を選んで、自分の蓋をしている気持ちに気づく *アルコールインクアート→色を選んで、無心になってアートすることで気持ちの浄化 〈外見サポート〉 *パーソナルカラー診断→自分に似合う色の区分がわかる *メイク→素材を大切にしながら顔まわりを明るくするメイクの仕方 〈その他の実践事項〉 ・色の意味を知る(デザイン、色彩心理) ・好きな色、嫌いな色→アートを通じてどう感じるか ・人の顔色に合う色(メイク、服) ・スタイリストの話が聞けたら良いな～ ※最終目的がまだ定まっておりません。  
			

11	動画クリエイト	松浦 崇裕	★★★ 松浦 崇裕 さんが取り組みたいこと ★★★
	迷作工房 ～動画制作を通して未来に立ち向かう～ ※～8名程度	1986 年 生まれ 2022 年 長野県から U ターン 魚屋の跡継ぎ・中小企業診断士の資格を持つ 幕別町民向けの動画メディア「幕別図鑑」を発信 スポセン・図書館・華の湯のヘビーユーザーです  	普段、何気なく撮っている動画をもっと素敵にしてみませんか？ここではちょっとした撮影のコツを学び、動画表現の仕方を広げる方法を学びます。最初は簡単な動画撮影から、回数を繰り返し「どんな動画を撮るか」を考えて、実際に撮影して表現することに挑戦して頂きます。最終的にはメンバー全員でチームとなってテーマを決め、一つの動画作品を完成させてもらいます。動画撮影にはスマートフォンがあれば OK です。答えのない「動画制作」という表現と一緒に立ち向かう仲間を待っています。 【 目 的 】 だなどこフレーム ①誰が ⇒動画撮影に興味がある生徒。失敗を恐れずに行動できるようになりたい生徒が ②何を ⇒当プロジェクトを通して ③どのように⇒自ら考え、仮説を立て、行動するサイクルを回し、大小の失敗を体験し、「うまくいかないこと」が当たり前という感覚を得ることで ④効果 ⇒未知の状況にも臆することなく、自ら考え行動できる勇気を育む 日々の生活で「失敗」と思い込んでいたことが、実は失敗ではないと気づき、自分にとっての「本当の失敗」とは何かを形成します。 【 内 容 】ワークショップ・ディスカッション・撮影・編集作業 ・最終的な成果物はチームで制作した動画を公開することです。 ・チームでちょっとした撮影技術を学びながら、取りたい映像を設定してそれを表現する経験を積みます。 ・チーム内で撮影者や動画に出る役回りをローテーションしたり、風景、人物など様々なシーンを表現してみます。 ・プロジェクトの過程でチーム内でたくさんディスカッションして意思決定をしていきます。 ・映像の著作権は生徒または学校に帰属するものとし、講師側ではデータを所有しません。編集のために一時的に P C へ取り込むことがあった場合も、編集後削除します。 
12	地域コミュニティ イベント企画	石川 康弘	★★★幕別町議会議員 石川 康弘 さんが取り組みたいこと★★★
	～ウェルビーイング（心と体と社会がいい状態）を目指して～ ※～8名程度 ※イベントは土日あり	1952 年生 幕別町出身 1971 年 帯広農業高等学校卒業 卒業後、花屋さん勤務から始まり 8 つの職業を経験 現在は農業経営と幕別町議会議員として活動中 ボランティア活動として幕別町百年記念ホールでココロの授業を開催中（5 周年を迎える） 	我が国は先進国でありながら幸福度は世界で 55 位と低迷しております。どうしたら良いのでしょうか？幸せの価値観はそれぞれ違いがあると思います。日本における「ウェルビーイング」や「幸福学」研究の第一人者の前野隆司さんは、今のうちから、誰もが心豊かに生きられる社会を実現するために何かできることはありますか？の問いに、まずは没頭できる趣味を見つけること。本当の幸せになるための鍵は「利他」ですが、心に余裕がなければ、誰かのために何かをしようと思うことすらできない。だから、「まずは自分の心を満たすための手段が必要です」とお話されてます。老若男女問わず一緒に「幸せ」を探してみませんか？ 【 内 容 】 「こころの授業」を通じて自分の「思い」「考え」「幸せとは」を掘り起こしてみましよう。百年記念ホール周辺の「スマイルパーク」をフィールドに、チームのみんなが楽しめるイベントや居場所作り、自己実現に繋がります。一緒に楽しい未来と社会を考えてみましょう！ 【 キーワード 】 ・ウェルビーイング・コミュニティ・自己実現・趣味・文化・芸術 

13	アウトドア・ウォーキング	鞆野 紳量	★☆☆十勝ガイドサービス 遊方屋 鞆野 紳量 さんが取り組みたいこと★☆☆
	未来を創造する遊美学講座 ※～8名程度	【経歴】 福岡県北九州市出身 海上自衛隊第2潜水隊群所属 然別湖ネイチャーセンター勤務 北海道新聞社報道部勤務 アルバイト転職多数 遊方屋開業（2006～） 【事業内容】 ネイチャーガイド・ウォーキングインストラクター アクティビティー開発・ファシリテーター サバイバル研究・養蜂家 【趣味】 読書、映画鑑賞、軽トラ旅、DIY、陶芸、写真、昔の暮らし、木こり、薪ストーブ、長距離歩行、禅の修行 	【プロジェクト概要】 50年後の未来を一緒に考えよう！あふれる情報、異なる価値観、人間を凌駕するAIの台頭など、混沌とした世の中でこれからどうなるの？にすごく興味があります。これからの未来を想像しながらそれぞれの視点や考え方を柔軟に織り交ぜながら高校生の皆さんと一緒に考えたいと思います。 【内 容】 私が取り組むのは、遊びの探求・伸びしろを引き出す遊ぶ筋力トレーニングです。教室（In）から校外（Out）へ。身近な自然を教材に若い体と頭を連動させて自らの体験をとおして学びに変えていくリアル授業の展開を行います。 ○足で考える→地図を読む、森を歩く、川を歩く、海を歩く、冬を歩く、闇を歩く⇒古代ギリシャの逍遥学派 ○手で考える→ロープワーク、魚釣り、魚をさばく、火起こし、野外料理⇒非認知能力を高める ○五感を養う→師匠の言葉、ネイチャーナビゲーション、私とスマホ⇒「知っている」より「見たことがある」 
14	写真・イベント運営	米長 時正	★☆☆国語教師・写真俳句家 米長 時正 さんが取り組みたいこと★☆☆
	とちかち繋がる写真人 ～6名	1972年 東京生まれ 1995年3月大学卒業 1995年7月スリーエフ（コンビニエンスストア）副店長採用 1996年新宿の喫茶イクタ契約社員として就職 2008年北海道へ移住・独学で写真を始める 2010年写団「吟遊写塵」立ち上げる 2014年釧路図書館で写団吟遊写塵グループ展開催 2018年音更図書館で初の個展「写真俳句展」開催 以後、帯広ミントカフェを中心に個展開催 次回2026年11月「続写真俳句展」（仮）帯広ミントカフェで開催予定 	十勝在住の写真人による作品展示やワークショップなどを通じて、世代を超えた交流やつながりを広げ、有機的な人間関係を構築しませんか。現代において写真というメディアは、その使い勝手の良さにより、情報発信において有効な力を発揮します。言葉や障がいの壁など、様々な境界のボーダーレス化に役立つものです。この活動を通して地域発展の一助となることを目標とします。 ※＜メンバー募集条件＞※ ①カメラ・写真を通して人との交流を楽しみたい人 ②広く地域の方々と土日始めてボランティア活動に参加できる人 ③一眼レフカメラまたはミラーレス一眼カメラ、フィルムカメラなどを持っているとありがたいです <内 容> 外部の方々との交流がメインとなります。大人に向けたプレゼンテーションをしたり、様々な方とのミーティングを通して、来年の夏、帯広地区での写真展、映画上映など、様々な団体・機関を巻き込んで実施することを予定しています。（週末も活動します…） 

